

みちづくしin北九州2021 実施報告

令和3年11月30日から12月1日の2日間にわたり北九州市で開催された「みちづくしin 北九州2021」は、九州各県から234名の道守さんや関係者が北九州市に集結しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場内のソーシャルディスタンスの確保のほか、コロナ禍におけるみちづくし初の試みとして、1日目の交流会をオンラインで開催し、九州各県にサテライト会場(会場数14会場、参加者:132名)を設け、メイン会場と結び、意見交換を行いました。また、交流会の状況をYouTube(最大同時視聴者数:58名)で広く配信しました。



1 日目(交流会)

【主催者及び来賓挨拶】

道守九州会議副代表世話人で実行委員長の玉川孝道氏の主催者挨拶から始まり、来賓の生嶋亮介福岡県副知事、北橋健治北九州市長、藤巻浩之九州地方整備局長より挨拶がありました。

市長からは、日頃の皆さんの活動に対して、感謝の言葉が述べられました。

【功労者表彰・感謝状贈呈】

長年にわたり道守活動を九州各地で続けられてきた8名・団体の道守さんが功労者として表彰され、また、道守活動に貢献・支援が認められる2団体に感謝状と記念品が道守九州会議榎木武代表世話人より手渡されました。



道路サポーターとしては、昭和通り振興会の白石廣海さんが道守功労者として表彰され、また、道守活動に貢献・支援が認められる団体として北九州市道路サポーターの会へ感謝状が授与されました。

【基調講演】

北九州市建設局長の東義浩氏より、「北九州市の魅力と北九州市道路サポーター制度」と題して基調講演が行われました。

講演の中で、北九州市の歴史や山口県下関市との関門連携、地域と行政の協働体制の好事例で先導的な取り組みの「北九州市道路サポーター制度」についての説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



【意見交換会】

道守ふくおか会議代表世話人の吉武哲信氏をコーディネーターとして、2つのテーマで各県会議からの報告・意見交換をメイン会場とサテライト会場をつないで行いました。

テーマ①では「コロナ禍での道守活動」として、新型コロナウイルスにより対面で会話する機会が激減した中でも工夫と知恵を駆使しながら実施している活動事例についての報告がありました。

テーマ②では「行政との連携」として、行政と道守団体、地域の方々との連携のあり方や協力関係について、報告がありました。



【大会旗授与】

大会宣言を経て、最後に次回開催地へ大会旗を受け渡し、交流会に幕を閉じました。

次回開催地は熊本県の阿蘇。

道守くまもと会議の阿南誠志氏、三保木悦幸熊本河川国道事務所長より、力強いお言葉がありました。



【紫川散策】

交流会終了後、小倉市街地から紫川周辺の観光スポット等を巡る散策を実施しました。紫川に架かる「火の橋」では点火イベントもあり、あいにくの雨でしたが、約60名の参加者は滅多に見ることのない機会を楽しんでいました。



2 日目(現地体験学習)

【共通コース】

2日目の現地体験学習は寒空のもと、62名が参加。まず、北九州市ボランティアガイドの案内で門司港レトロ地区の名所を通った後、北九州市道路サポーターの会の「NPO法人門司港レトロ花の会」団体が活動されている場所を見学し花植の体験。

その後、「関門周回コース」と「門司港レトロ満喫コース」に分かれました。



【関門周回コース】

NEXCO西日本から関門橋・関門トンネルの説明があり、関門トンネル人道で県境を跨ぎ下関側へ。普段は一般の立ち入りができない関門トンネルの換気設備や排水設備も見学でき、大規模構造物の維持管理のスケールの大きさを感ずることができました。



【門司港レトロ満喫コース】

古くより歴史の大舞台として世界に羽ばたいた大陸航路の物語を知り、レトロな雰囲気漂う商店街やかつての高級料亭などから栄華の歴史を学びました。門司港各地に残された、歴史の足跡を訪れ、昔の人々の生活やかつての街並みに思いをはせました。

